

## 第5回 北勢線の魅力を探る

～古き仏さまと出あう～

開催日 2005年9月19日(月・祝)

参加者 117名(内子ども2名)

協力 瀬古泉自治会、穴太自治会、筑紫自治会、安渡寺、山口一成さん

### 瀬古泉の観音堂～観音池のモミジ～薬師堂

平成17年(2005)3月26日に開業した東員駅に始めて集合である。今回も大勢の方が参加し、狭いホームが人であふれた。駅前では東員名物のコスモス畑で可憐な花びらがちらほら見受けられた。さらに葉っぱが一面に広がる大豆畑と土手の彼岸花を眺めながら瀬



観音池のモミジ

古泉の観音堂に着く。正式には穴太山多井寺で、もとは穴太にあったものを移したもので、本尊の千手観音立像は行基の作と言われるが、後世にかなり改修されている。

近くに「観音池のモミジ」と云われる古いモミジがある。幹の形から「臥龍モミジ」とも呼ばれ、けっして紅葉のしないモミジだそうだ。むかし瀬古泉にきれいな水が湧き出る池の側に観音堂があったが、織田信長の侵攻によって焼失した。また、この池から発見されたといわれる観音さまは、言い伝えでは多井寺に

祀られ、後に東京の目黒の不動さんに祀られているという。

穴太薬師堂では、地元の辻哲夫さんから本尊の薬師如来坐像が県有形文化財に指定(昭和32年=1957、10月10日)を受けた当時のエピソードなどの説明を聞く。お堂の中に入ると正面にその薬師如来坐像が安置されており、脇壇には小振りの木造十二神将像と木造釈迦如来像が安置されている。薬師如来坐像は、ひのき一本造りで高さは89.6cmある。作者は不詳であるが、作られたのは平安中期(870～)といわれる。薬師堂の横にある集会所では写経が出来るよう地元の方が準備しており、早速、写経体験をさせていただき、般若心経を書いて奉納した人も居た。



薬師如来坐像

### 筑紫大連の碑～延命地藏尊

筑紫の春日神社の境内には「筑紫大連」の碑が建っており、自治会長の種村さんから由

来を聞く。もともところには古塚という古墳があり、鉄器・土器が見つかり、近隣の畑からも遺物が見つかったそうである。しかし、採集された遺物の所在ははっきりしていない。被葬者とされる「筑紫連」とは個人名でなく。古代豪族の筑紫氏を指し、筑紫国（現在の福岡県）に由来すると考えられている。

延命地蔵は「筑紫の地蔵さん」として地域に親しまれている。本尊の地蔵菩薩坐像は室町時代に応仁の乱の戦火によって亡くなった人々を弔うために作られたと伝わる。当初は筑紫にあった禅定寺に安置されていたが、明暦2年（1656）に寺院が馳出（現在の四日市市馳出町）に移転するにあたり、地蔵のみが地蔵堂を建立して筑紫にまつられたと伝わる。その後、明治17年（1884）に地蔵堂は火災に遭って建物・古文書などを焼失したが、仏像のみは信者によって火中より持ち出され、危うく難を逃れた。その後、しばらくは種村家が預かっていたが、昭和44年（1969）8月に現在地に地蔵堂が筑紫区によって再建された。



筑紫大連の碑

#### 穴太徳の碑～クロガネモチ～安渡寺

穴太徳の碑は濃州道に面して立っている。高さ1m位の石碑で、よく見ると“神戸屋徳次郎”という文字が読み取れる。“実録 荒神山の決闘”について、広沢虎造の浪曲の世界と対比しての話を山口一成さんから聞く。

穴太徳の碑から濃州道を東に向う。途中にある館養蜂場を左に曲がると天皇八幡社、右に曲がるとクロガネモチの木がある。天皇八幡社は天皇社と八幡社が明治時代に合祀された神社である。クロガネモチは四方に枝を延ばした大きな木で、桑名市指定天然記念物である。ここを過ぎた頃から雨が降ってきた。晴天の霹靂である。



クロガネモチ

次に訪れた安渡寺の高い石段を登るころには雨も止み、ほっと安堵する。御本尊の聖観音像は平安時代の作で、桑名市指定文化財である。この辺りは平安時代には星川市場といわれ、商売の盛んな場所であり、伊勢湾もこの辺まで入り組んでいて、港もあったようである。ここで予定の12時になり今日のウォークは解散とし、本堂や境内の木陰でお弁当を食べる人、星川の食堂へ行く人、星川駅へ急ぐ人もいた。



安渡寺の天井画